

# やる気と感動

学校だより 10号  
平成30年  
7月4日(水)

## == もうひとつの七夕 == 甲府空襲の話

昭和20年(1945年)7月6日の深夜から7日にかけて、甲府市中心部が空襲にあいました。甲府を襲ったのは、131機のB29でこの空襲はわずか2時間でしたが、甲府の街は一部を除いて焦土と化しました。この空襲の犠牲者は1,127人でした。甲府以外にも、甲府周辺、大月・上野原、下吉田が空襲に遭っています。人口が多く工場も集中しているために、空襲の標的となったといわれています。東京、名古屋、大阪、神戸、京都などの主要都市の大空襲が行われ、その後熊本、高知、千葉、清水、和歌山、岐阜、宇都宮そして甲府などの地方都市まで空襲が及ぶようになりました。そして甲府空襲のわずか1ヶ月後、広島・長崎に原子爆弾が投下されたのです。山梨県内でも多くの方が犠牲となった、『甲府空襲』があったことをしっかりと記憶しておきましょう。

\* 四年連続の掲載です。

## === ヒロシマから学ぶ ===

南部中では修学旅行で毎年広島を訪れています。中学生の多感な時期に被爆地『ヒロシマ』から多くを学び、感じ取って欲しいと思うからです。旧南部中学校時代から数えると今回で28回目となりました。

現在の広島平和記念資料館は改修中で、被害大きさや恐ろしさは、当時より少しインパクトの薄いものになっています。人影の石(石段に座っていた人が原爆により一瞬のうちに蒸発してしまい石段には黒い影だけが残った。)も人影が消えかかってしまったため現物ではなく写真が展示してありますし、展示物の量もごく一部になっています。被爆体験を語り継いで来られた『語り部』の方々も高齢となり、現在活動を続けられているのは、15人ほどになってしまっているそうです。学ぶべき過去が風化していくようで寂しい気持ちです。

今回被爆体験のお話をしていただいた岡田さんは8歳で被爆し現在は80歳。岡田さんからは『73年前のヒロシマ・ナガサキはまだ終わっていない。戦争・紛争・差別は多くの国で今も起こっている。核開発のもと犠牲になっている子どもたち。子どもたちを貧困・飢餓・生命の危機から救いたい。子どもたちが救えたときヒロシマ・ナガサキが終わる。世界の核兵器の廃絶を日本の中学生にお願いしたい。』という熱いメッセージをいただきました。最後の『わざわざヒロシマを訪れてくれた皆さんに感謝したい。皆さんの前で話ができることに感謝したい。最後まで目を輝かせて聞いてくれた皆さんに感謝したい。』という言葉には特に感動を覚えました。単に歴史の証人としてだけでなく、現在も平和な未来へ繋げるための世界的活動を続けている岡田さんの強い決意と熱い使命感に感動を覚えました。

平和記念公園での献鶴式のなかで『平和の誓い』の朗読と『献鶴』を行いました。『戦争を知らない私たちですが、平和への祈り、平和への願いを込めて鶴を折りました。「原爆の子の像」に捧げるとともに、平和への思いを新たにします。私たちは、この修学旅行へ向けての学習とここで見たこと、感じたことを深く心に刻み、大切にしていきます。真の平和を築くために、一人一人ができることに取り組みます。そして、平和への願いの輪を大きく広げていくことを、ここに誓います。』という宣誓でした。

今年の夏は、全校の皆さんに『真の平和を築くために、一人一人ができること。』探し、一つでも行動に移すことを期待しています。8月6日、8月9日、8月15日には、戦争や平和を考える報道(新聞やテレビなど)がたくさんあると思います。是非その報道に、積極的に触れてみてください。過ちを繰り返さないためにも、平和な社会を築いていくために、何歳になっても歴史から学ぶことは大切です。

明日、5日(木)~6日(金)の2日間、2年生は職場体験学習です。『やる気』『礼節』をもって臨んでください。きっと貴重な経験になると思います。

